

KSKR

2023.1

Vol.56



つながり通信

編集人:社会福祉法人つながり
大阪府高槻市富田町4-7-16
TEL:072-697-7080

日帰り旅行に行ってきました!!



社会福祉法人つながり・つながり後援会

- | | |
|--------|--|
| 1P | 表紙・目次 |
| 2P | 新年のあいさつ【社会福祉法人つながり 法人本部 事務長 藤森正志】 |
| 3P～6P | 社会福祉法人つながり 事業所活動紹介
【サニースポット・ワークスポット・コラム・ふらっと・ライラック・かるがも】 |
| 7P～11P | 家族会ひだまり リレーインタビュー Vol.8
『親亡きあとに向けて』(中村君子さん、中川春枝さん)
つながり後援会 入会&寄付報告 |
| 12P | 裏表紙 |

つながり通信について…

地域に開かれた事業所を目指し、法人内の各事業所の取組みや活動内容等、情報開示を行い、より多くの方々に当法人の方針や活動内容を知っていただく事を目的としています。

本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年も新型コロナウイルスに翻弄された一年となりました。感染者数が少し収まったかと思えばまた増えての繰り返しで、まるで波の様だと感じています。流行が始まったところに比べると、自分自身の恐怖心や警戒心も少しずつ薄らいでいっているようで、これではいけないと思いながら日々を過ごしています。

さて、当法人も昨年の十一月十八日で丸二十年を迎えました。当法人の第一号施設であるサニースポットも、今年の四月で丸二十年となります。私もサニースポットの開所当時から勤務しているので、この二十年間色々なことがあったなど感傷に浸りたいところですが、そのような間もなく現在進行形で色々なことは起こります。

私は現在、法人の運営に携わっていますが、常々思っていることがあります。福祉を取り巻く環境の変化や目まぐるしく変わる世の中の流れ、日々の大なり小なりの出来事などはまるで『波』の様だと。

時には『荒波』に立ち向かう勇気を持つこと。時には『荒波』をやり過ごす冷静な判断をすること。その時々『波』を見極める目を養うこと。『波』の上で最高のパフォーマンスを行うバランス感覚を養うこと。

その都度、最善と思われる選択をしながら、様々な『波』を乗りこなしていく事が、法人の安定につながっていくのだと思います。

今年はどうな『波』が押し寄せてくるのか、どんな『波』が来ても法人の職員と一緒に乗りこなしてみせるという意気込みをこめて、新年のあいさつに代えさせていただきます。

令和五年元旦

社会福祉法人つながり 法人本部 事務長 藤森正志



各事業所活動紹介

サニースポット

(生活介護) 管理者 小西信之

あけましておめでとございます。
本年もどうぞよろしく願っています。

今回は皆様の記憶にも新しく残っていることと思います
が、昨年の10月28日に日帰り旅行として滋賀県のブルー
メの丘へ利用者様55名、職員26名、合計81名にて余暇活
動を行ってきました。新型コロナウイルスの流行により、令
和元年の一日泊旅行から3年ぶりとなる大きな外出イベン
トに利用者の皆様とともに職員も心はずんでいましたが、
出発後すぐに高速道路の大渋滞につかまり、当初の予定よ
り1時間遅れでブルーメの丘に到着。時間の関係から園
内の散策や動物とのふれあいをする時間はほとんどとれ
なく、BBQとアイスクリーム作りとお土産購入といっ
た活動のみとなってしまうましたが、秋晴れの中での移
動、広大なコスモス畑の景観や観光バス内でのビンゴ大会
など、3年間でできなかった日帰り旅行企画に皆様楽しん
でいただけたことと思います。



BBQ 風景



アイスクリーム作り

また、帰りの高速道路でも渋滞につかまり、予定してい
た帰宅時間より2時間と大幅に遅れてしまい申し訳あ
りませんでした。日帰り旅行における新型コロナウイルス
感染対策としては、観光バスの台数を3台に増やし
て座席空間を空けること、手指消毒の徹底や少人数とな
るように各グループによる行動といった感染症対策を行
う事で実施いたしました。

また、昨年に取り組んだ
企画は日帰り旅行のみで
はなく、富田ジャズスト
リートへの参加やネオク
ラシックカーフェスティバ
ルにおける授産製品販売
など、感染症対策をしつ
かり行うことで取り組む
ことができた活動もあり
ました。まだまだ新型コロ
ナウイルスによる影響は
計り知れずありますが、
今できることを全力でや
りきること、利用者の
皆様にとって利用して良
かったと思える施設とな
るよう職員一同で努めて
いきたいと思っています。



クラシックカー フェス



富田ジャズストリート

ワークスポット

(就労移行支援、自立訓練【生活】
就労継続支援B型、就労定着)

管理者 仲津秀行

たかつきDAYS掲載！

「誇りとやりがい」

明けましておめでとうございます。
本年もよろしく願いいたします。

皆さまご存じの方も多いと思います
が、高槻市では毎月、「たかつきDAYS」という広報誌を発行して市民の皆さまにお届けしています。昨年12月号では障がい者の就労についての特集記事が組まれ、ワークスポットから就職された加藤立也さんが紹介されました。

保育園や幼稚園にお弁当を提供し、戻ってきた容器を洗浄することが主な仕事ですが、加藤さんの素晴らしいところは、職場に掲示されている園児からお礼の書かれたメッセージボード等でお客様からの感謝の気持ちをしっかりと受け止めている点にあります。ただ単に容器を洗うだけでは辛い立ち仕事ではありませんが、お客様からの感謝の気持ちを実感し、仕事に対する誇りとやりがいに繋がっていらつしやいます。

ご本人の努力と職場のサポートを受けながら、利用者様全員が公私ともに充実した毎日を過ごすことができますよう、今年も職員一同、精一杯支援してまいります。



コラム

(共同生活援助)

管理者
妹尾弘宣

明けましておめでとうございます。

初夢はどのようなものでしたでしょうか。朝ドラを観ながら話したり、今年の阪神はどうやろうと他愛無い会話が、思い返せば愛おしく思えたりします。今年も、一日一日を大事に皆様と歩んでいけるよう取り組んでまいります。

グループホームでは、昨年12月24日(土)にクリスマス会を実施予定でしたが新型コロナウイルスの影響で急遽中止となりました。今年こそは、新型コロナが終息して、夏に花火を見たり、秋の紅葉を見に行けたらなと思っています。

さてグループホーム事業ですが、全国的にニーズが高まっていることから事業所数と利用者数が増加傾向にあります。高槻においても同様に、事業所を開設した方から入居希望の依頼をあちこちで耳にします。土地確保の目的が立っていないことから当法人の新規グループホーム開設は、まだ時間を要します。他所のグループホーム事業者と連携しニーズに応じていくのも必要だと感じます。

8050問題、ひきこもり、不登校など地域には様々な地域課題が潜んでいます。20年間、富田で活動してきた「つながり」が地域に求められるものも大きくなってきています。何か困ったら「つながり」に相談してみようと思ってくださるよう、職員一同努力してまいりますので、今後ともどうぞご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

皆様にとって本年が良い1年でありますようお願いいたします。

ふらっと

(放課後等デイサービス、
児童発達支援事業)

管理者

平谷知英

あけましておめでとうございます。
2022年は2021年に比べ幾分か新型コロナウイルスによる活動制限が緩和された状況でしたが、感染防止は変わらず徹底し、各活動を行ってきました。

壁画工作では、「クリスマスツリー」をテーマに作成を行いました。

今回は、賑やかなツリーになるように、ふらっとのみんなでそれぞれ役割分担をし、飾りをたくさん作っていただきました。

まずは、土台となるツリー作りから始め、緑の画用紙を山折り谷折りと繰り返し円になるように両面テープやボンドで貼り付けて作成しました。飾りは、アイロンビーズで作ったプレゼントやキラキラの糸を巻き付けた発泡スチロールの球、布生地を縫い合わせたステッキ、折り紙や画用紙を貼り合わせたベルや靴下、マニキュアで色を付けた松ぼっくり、トイレットペーパーやキッチンペーパーの芯を貼り合わせた雪の結晶、てっぺんにはフェルトを縫って作った星など、それぞれとても素敵な飾りができあがりました。

今回の「クリスマスツリー」は令和4年12月3日(土)、4日(日)の高槻市福祉展にも展示し、来場の皆様に観賞していただきました。今後製作物が展示できる機会を模索していくと考えています。



ライラック

(居宅介護、移動
支援、相談支援)

管理者 濱本俊司

明けましておめでとうございます。
新型コロナウイルスにより、日常生活が大きく変わってから3年。

ライラックでも、令和4年に入ってから、第6波・7波の感染拡大に伴い、職員や利用者様の感染や検査が相次ぐ時期がありました。地域生活を支える支援者として、自分たち自身も感染症からしっかりと身を守りつつ、どうやって必要な支援を維持すればいいのか、試行錯誤の毎日であったと思います。

また、ロシアのウクライナ侵攻による生活インフラの破壊や民間人の被害報道に触れ、地域社会で、家族や友人と当たり前に生きることの大切さや尊さをあらためて実感しました。

それに対して自分達がどのように支援者として関わるのか、
出来るのか、
問い続けていく
ことになる
と思います。



職員紹介



まつもと とき
松本 吏生

『この度、令和4年10月にサニースポットからライラックへ異動、相談支援専門員を担当することになりました。
サニースポットでは生活介護のチームリーダーとして、利用者様はもとより、ご家族や関係機関との日々のやり取りから、貴重な経験を積ませていただきました。
そんな経験を活かし、下窪職員と共に相談支援専門員として頑張っておりますので皆様どうぞよろしくお願いいたします。』

ライラックでは、令和4年10月から相談支援専門員としてサニースポットから松本職員も加わり、新鮮な気持ちで、業務に取り組んでいます。
令和5年は、職員それぞれがしっかりと地に足を付け、より良い支援と人材育成に繋がる展開が出来るように、日々の業務に邁進してまいります。

キッズスポット かるがも

(子育て支援
つどいの広場)

支援スタッフ

徳田 紀子

あけましておめでとございます。本年もよろしく願っています。

長く続くコロナ禍の中、感染対策に気を配りながら、親子が安心して楽しく過ごせるつどいの広場になりますように、日々取り組んでいます。

利用人数も徐々に増え、少しずつではありますが、以前のような賑やかさを取り戻しつつあります。



お父さんと一緒にリトミック



サンタさんからプレゼント



先輩ママボランティアさんと一緒にクリスマスリース作り

かるがもでは、利用者様の要望をお聞きしながら、子育てに関する講座や親子で楽しめるイベントを毎月実施しています。12月には、「クリスマス工作」と「クリスマス会」を行いました。クリスマス工作は、先輩ママボランティアさんが中心となつて、企画&準備をしてくださり、子どもの手形足形をトナカイに見立て、10組の親子が可愛いリースを作成しました。クリスマス会では、ライラックの職員が今回もサンタ役で協力してくださり、子どもたちは大喜びでした。16組の親子にプレゼントを手渡ししてくださいました。

今年で16年目を迎えることが出来ましたが、日頃から支えてくださる皆様方のお陰と感謝しております。これからも多くの方々に永く愛される『かるがも』になりますように、スタッフ一同、力を合わせて頑張っております。今後ともよろしくお願いいたします。

第8回インタビュー

- 1 親子の関わり—小さいころのこと 原因に思い当たること？
- 2 障がいがわかって—いつ頃？ 出産後すぐ / 検診 / 就学前
→ 覚悟・気持ちの整理は？
- 3 支援—教育機関 ではいつから？どんな？
サニースポットに入るきっかけ
- 4 子どもの将来について

2015年から始まった連載インタビューは、当初2017年開設の夜間支援型グループホーム「コラム富田」への入居者の保護者—元家族会会長の山口さん、中園さん、佐竹さん・宮浦さん・山倉さん・山田さんに登場していただきました。5回目以降は、22年前のサニースポットの施設づくりを担当した、初から関わり家族会の役員も引き受けてこ

られた方に順にお声かけし、河野さん、千守さん、増井さん、佐藤さん、土居さんに登場いただきました。



今回のインタビューでは、サニースポットが開所した当初からの家族会会員の中村君子さん(現家族会副会長)と、22年前から施設を支える会の会計として活動され、現在は家族会・後援会の一般会計の中川春枝さんのお2人をお願いし、お話しを聞かせていただきました。

中村央樹さん

1984(昭和59)年8月16日 38歳

□障がいの原因は？

子どもの障がいについては、原因に思い当たることは特にありません。出産3か月前に、私自身に湿疹ができ出産と同時に消えたことは不思議でした。

1歳半の時に弟が産まれて、実家の母親が手伝いに来てくれました。ちょうどその頃に、1歳半検診があり、母が同じマンションの方と一緒に連れていってくれました。この時の検診後の話では、「言葉がおくれているが、こっぴどい子でもいるので様子を見てみましょう。お母さんが落ち着いたら再度

お話しましょう」と言われました。

□遊びの広場へ

2歳を過ぎてから、保健師さんの紹介で、青空学級—元保育士と津之江の方が中心で運営の遊びの広場に参加しました。津之江のグラウンドの大きな木の下で、紙芝居や絵本の読み聞かせなどいろいろな遊びを取り組んでくれました。弟を連れての参加でしたので、見かねてベビーカーを貸して助けてくれるお母さんもありました。バスで雪のある所に行き雪遊びをしたり、公民館ではクリスマス会などを行いました。お父さんの出張が多かったのですが、楽しいひと時を持てました。



□発達支援の教室へ通う

言葉が出なかつたのでまわりも心配し、耳鼻科や神戸の子ども病院の先生に会わせてもらったりしました。また、刺激になつたらとの思いで、「子ども



もの城」にも大阪YMCA

の発達教室や京都の教室にも、小学校に入学するまで通いました。

□公立の保育所へ

年中から、障がい児枠で芥川保育所に入りました。地域で育てたいと思い、桃園小学校の障がい児学級に所属し、原学級にも入りました。

1年生の時の話ですが、ある子が息子を「先生の子もだと思っていた」と言いました。担任の先生の苗字と息子の苗字が同じだったためですが、先生の対応が父親のように思えたのでしょうか。これこそが地域で生きていくことだと感じ、少し嬉しかったです。

小学校入学と同時に学童保育にも入らせていただきました。学童保育は働く親の子どもとの放課後の場所づくりだと伺いましたが、同じ学年の子どももたくさんいて良い刺激になりました。

息子はブランコやジャングルジムが大好きでした。



ジャングルジムの上で登って手を離す様子は、まわりをヒヤリとさせまし

たが、本人はニコニコしていました。

□自閉症児親の会への参加

1年生の夏に、養護学級(現支援学級)の先生から「自閉症児親の会」[*下記参照]のキャンプに誘われて、参加するようになりました。キャンプでは、地域の小中学校の障がい児が参加し、それぞれの学校の先生方がサポートしてくださいました。ゲームやアマゴつかみ、乗馬や山登り、夜にはキャンプファイヤーなど。子ども達が眠りに入ったらには、先生や親たちと車座になって日頃の思いを出し合いました。眠れない子どもは、親に代わって先生が寝かせつけてくれました。

このキャンプは中学校卒業まで参加し、養護学級の先生も一緒に参加してくださいました。他校のお母さんと知り合うきっかけにもなり、たくさんの方にはお世話になりました。



□高等支援学校

中学校を卒業し、高等支援学校へ入ることになりました。なかなか支援学校の生活に慣れることができず、校内の保健室に入り込むこともありました。

* 高槻自閉症児親の会

高槻自閉症児親の会は1967年に梅田和子さんを中心に、自閉症児が地域の学校の通常学級に健常児と共に小中学校を過ごすことを前提の考え方を持つ親がつくった組織でした。当時の中心の課題は、中学卒業後の進路でした。そのころ高校では障がい児の受け入れは選抜入試という制度の中で論外という認識でした。そこで起こったのが「公立高校に障がい児を」の運動でした。自閉症児本人・保護者と、学校関係者が一緒になって署名活動や、教育委員会に陳情に行きました。長年の活動のおかげで、現在では、高校に障がいを持つ子ども達の一部は入学し、高校生活を送れるようになりました。その後、自閉症児親の会



は一旦解散しましたが、地域で生きていくことにこだわり続けている自閉症児本人や親を支援していくために再開—TJO・ケアネットが設立され現在に至っています。活動は、自閉症本人も保護者も高齢になり、教育問題から障がい者の人権擁護にかかわる啓発活動が中心になっています。最近では6年前に起こった障がい者施設の相模原津久井やまゆり園事件の問題点を、広く社会に訴える活動を中心に進めています。関心のある方は、TJO・ケアネットの事務局に連絡してください。

(TJO・ケアネット事務局 R・i)

どちらかというとおとなしい子どもでもでしたが、そのうちに自傷行為が見られるようになり、自分の首の後ろや胸をたたくようになり、かわいそうなほど強くたたいていました。また、頭突き・他人に危害を加える他傷行為もおきるようになりました。

□サニースポットへ

支援学校を卒業するときにつながり法人が創立されることになり、最初にサニースポットに入所することができました。支援学校からは、息子を含めて6名が入りました。早いもので入所して20年を迎えています。将来は、グループホームに入ることを考えています。本人自体が、まだまだ身辺自立ができていないので、夜間対応型のグループホームを願っています。



中川善太さん

1988(昭和63)年4月22日 34歳



善ちゃん、生まれたときは泣くことも笑うこともなく、ただひたすらおとなしいだけの赤ちゃんでした。ミルクを飲むのにも1時間がかかりで、上のお姉ちゃんのときは違つと感じ、生まれつきの病気があるのではないかと不安でした。3ヶ月検診で保健師さんの顔色が変わり、「すぐに医大へ行つてください」と言われ、医大の小児科で「大丈夫、心配しないで。たぶんダウン症や」と言われました。命にかかわる病気ではないので救われた気持ちでしたが、血液検査、心臓、脳波の検査を受け、1ヶ月後の結果は「21トリソミーのダウン症」でした。ダウン症についての知識もなく、これからどうしたらいいのか頭が真っ白で、医大から家までどう帰ったのかも覚えてなくて、その夜熱が出ました。

□早期療育、そして保育所へ

医大の先生に訓練をすすめられ、新大阪にある「子どもの城」に行きました。先生に言われた通りに、毎日足の先から順番に乾布摩擦し口のまわりのマッサージをしまし

た。1歳半になっても立てないので、週1回高槻の郡家にある「療育園」にも通いました。家でも、牛乳パックで階段を作り、反対側に板のふすまを乗せた滑り台で腕や足を鍛えました。3歳でやっと歩き始めました。病院通い・「子どもの城」・「療育園」と本当に3歳までは、忙しかったことが思い出されます。よく熱を出し、3歳までに4回も肺炎にかかり、親も泊まり込みで入院しました。



並行して保育所へも通いました。親子遠足・いもほり・夏まつり・生活発表会などいろんな行事に参加しました。けれど、言葉はなかなか出ませんでした。筋力がないので発音がうまくできず、思っていることを伝えられませんか。ある時、長くお休みしていた一番大好きな友達が保育所の園庭に來たのを見て、友達の名前を呼んだそうです。それまで全然言葉が出なかったのに、友達の顔を見た途端に言葉が出たことを保育士さんから聞いて、友達の力つてすごいなと実感しました。同じ年齢の子どもの刺激を受け、就学前まで月2回早期療育に通い、知的にも身体的にも同じ年齢の子どもには遅れながらも、少しずつ成長していきました。

□小学校生活

早起きが苦手でなかなか動かないので、お姉ちゃん2人から「遅れるから早くしな」と毎朝言われ、引っ張られながら富田小

学校へ通いました。2年になって、誘ってくれる同級生がいて一緒に登校するようになりましたが、途中で座り込んで動けなくなりそうです。友達も困ってしまうので先にいってもらい、親が動くまで一緒に付き合い毎日が遅刻でした。1日2時間ほどクラスから離れて、たんぼぼ教室(現・支援学級)で他の学年の友達も一緒にカードや絵を描いたり、体育館では体を動かしたりして過ごしていました。



□ 絵画教室

学校が終わった後、小学1年生の時から青少年交流センターの絵画教室に通いました。先生は、後に「社会福祉法人つながり」の立ち上げから力をそそぎ、一番困難な時期に初代施設長を引き受けて下さり病魔で亡くなられた鷲江芙美子先生でした。赤・青・黄色の三原色を使って大胆な絵を描いたり、線からはみださずに色塗りをしたり、丸の中に目・鼻・口と人物も描けるようになり、大事な時間を過ごすことができました。大人になってから、ボードレスアート教室にも、月2回しばらく通っていました。

□ 太鼓との出会い

発語がないので、小学2年生の時、支援の先生が太鼓のリズムに合わせてあそびを教えたのがきっかけで、太鼓が大好きになりました。



中学卒業後の高槻支援学校高等部のクラブ活動も和太鼓クラブに入りました。島本町に住む友達に通っていた和太鼓の教室にも通いました。先生に「お母さんも一緒に」と言われ、私がメロディを覚えて息子に毎日教えるようになりました。最初に習った演目は「三宅」で、毎日ツクドン・ツクドン・ツクドンばかり叩く練習をして、ようやく叩けるのに3年かかりました。第2回サニスポまつりでも職員さんと一緒に叩いたのが、なつかしい思い出です。今でも、毎日家でもちやの太鼓を練習しています。



習をして、ようやく叩けるのに3年かかりました。第2回サニスポまつりでも職員さんと一緒に叩いたのが、なつかしい思い出です。今でも、毎日家でもちやの太鼓を練習しています。

□ 公立高校を受験し不合格に↓高槻支援学校へ地域の先輩の保護者が、地元の阿武野高校の校門前で立って「障がい児」を公立高校への運動を始めたので、善ちゃんが小学校の時から署名活動をしていました。運動の結果2000年に阿武野高校に障がい児2

名から知的障がい児の受け入れが始まりましたが3名の枠でした。中3の年には16名が受験することになり、すでに四中から1期生1名が在籍していたので、1パーセントの望みを持ち受験しましたがダメでした。



校門前で運動を始めたのは富田の地域なのに、地域の子どもはひとりも入っていないのです。支援学校では保護者会の役員をしましたが、同じ障がいを持つ親同士、気をつかわないことが一番でした。

□ いろんな体験を

☆ ダンス

2002年、芸能スクールでタレント育成をしていた牧野アンナさんが筋肉が付きにくい「ダウン症のためのダンススクール」を立ち上げました。毎週火曜日の夜枚方まで練習に行きました。身体を動かすが苦手ですが、3月21日世界ダウン症の日、万博記念公園の発表会で踊りました。5年間通いましたが、リズム感がなくあきらめました。

☆ 梅田の美容整形

歯科医の先生の紹介で、障がいを持つ子ども「施術」をしてくれる、大阪梅田にある

美容整形へ通いました。足の先から頭、顔のツボを押さえ最後に口の中を、ダウン症の子どもは舌が奥に下がっている状態なので口の奥の舌を引っ張るのです。「もうそろそろ1人で来ようか」と言われ、3年過ぎからひとりで通うようになりました。もちろん親が忍者で後をつけていました。……。

☆ふれあい大学

サニースポットからの紹介で、京都深草にある龍谷大学の「オープンカレッジ」―学生が共に学ぶ体験型教育「共に生きる地域づくり」の授業2コマを受けにいきました。火曜の午後、各教員がリレー式で「障がい児者学習支援特講」「音楽療法特講」「演劇療法特講」を担当し、息子は「演劇療法特講」のクラスに入りました。4年間通い、学長名の修了証をもらいました。

☆野外キャンプ活動からアメリカ行き

私が地域の青年の研修の裏方を手伝っていたキャンプは、息子には健常者とは一緒にできないだろうとあきらめていました。ある時「できるかどうか連れていきたい」と青年に言われ、息子はライラックのガイドと一緒に一緒に参加してもらい、摂津峡での人権セミナーに参加できました。青年の毎年のアメリカ先住民居留区への研修ツアーにも誘



われ、親子共初めての飛行機に乗り、息子は、車が通らない所で聖地の山ベア・ビュートの景色を眺めながら寝そべったり、食事は好きなお肉ばかりでここに食べていました。



たくさんの人たちとのかかわりの中で、親も共に体験できたことが、現在に続く日々の生活につながっているように思います。息子の笑顔に感謝、そして、娘二人にも感謝です。

□一人暮らしをさせたい

ひと昔前、ダウンちゃんは寿命が短いと言われていましたが、最近では長生きするダウンちゃんも増えていきます。ただ老化はすでに始まっており、日々物忘れ等の症状が出ています。親が甘い分、姉二人に厳しく育てられた弟はたくましく、彼のまわりはいつも笑いがあふれています。年々、こたわりが強くなってきましたが、サポートしてもらいながら、近くでひとりでも生活できるようにと思っています。親は息子よりも長生きし一緒にいるつもりでも、そればかりは無理だとわかっているのです。いずれはどこかの施設にお世話になろうと思います。

文責：家族会つながり通信担当 朝日(岡本)



つながり後援会会員にご入会&ご寄附を
ありがとうございました。心より感謝申しあげます。



大山美智子 井上任典 岩崎律雄 植前秋恵 勝部忠雄 川中みよ子 河原紀子 神田愛子
木下章規子 久保有 近藤弘子 白岩登志男 鈴木とき子 高松寿美 中井拓也 中村昭代
中村薫 三木八重子 宮浦ヨシ子 森内桂子 森岡榮子 森崎栄子 矢倉諒一 山口富美恵
山本淑子 山本義生 吉岡宏明 吉田規代子

2022年7月～12月末日現在 敬称略：あ～順



サニースポット利用者様 作
『卯』

法人事業所一覧

サニースポット (生活介護)

〒569-0814 高槻市富田町4-7-16
(TEL)072-697-7080 (FAX)072-697-7086

しゃあぶ (日中一時支援)

〒569-0814 高槻市富田町4-7-16(サニースポット内)
(TEL)072-697-7105 (FAX)072-697-7108

ワークスポット

(就労移行支援、自立訓練【生活】、
就労定着支援、就労継続支援B型)
〒569-0814 高槻市富田町2-1-24
ハイツエレガンス1F
(TEL・FAX)072-696-4484

ふらっと (障がい児放課後等デイサービス事業、 児童発達支援事業)

〒569-0814 高槻市富田町2-11-22
(TEL)072-668-2781 (FAX)072-668-2785

～編集後記～

今年のあいさつ文は藤森が担当させていただきました。
『波』を乗り越えようかなと書きましたが、僕はサーフィンをしたことがありません。
心意気だけです…。

今年はウサギのように飛躍する年にしたいと思います！！

つながり通信編集担当：藤森



Before
20年前



After
20年後

あっという
間の20年

コラム (共同生活援助)

(TEL)072-694-1775 (FAX)072-694-1776

地域生活相談所ライラック

(障がい児・者ホームヘルプ・ガイドヘルプ・
障がい児・者 相談支援/高齢者ホームヘルプ)
〒569-0822 高槻市津之江町2丁目24-12今井ビル2F
(TEL)072-676-5513 (FAX)072-676-5531

キッズスポットかるがも 子育て支援 つどいの広場
〒569-0822 高槻市津之江町2丁目24-12今井ビル1F
(TEL・FAX)072-661-2326

★ 法人ホームページ ★

★ <http://tsunagari.info/>

★ Facebook もチェック！

